

広報 なすからすやま

No.132

Public Relations Magazine of Nasukarasuyama City

第39回いかんべ祭	2
第8回子ども議会	6
中学生14人が広島平和記念式典に参列	9
伝統文化	10
各地で夏のイベント盛りだくさん	12
市職員給与のあらまし	14
まちのわだい	16
インフォメーション	18
シリーズ 烏山高校ってこんなところ！	20

天空の光 伝統の響き 創造の

第39回

いかんべ祭

2016

9

September

真夏の祭典(8月20・21日、第39回いかんべ祭より)

9回 い か ん べ 祭



第3

サン



あなたにとって
「いかんべ祭」って何ですか？



いかにべ祭に2万8千人

いかにべ祭実行委員会村上美香委員長による第39回いかにべ祭が、8月20日(土)の夕方から21日(日)の夜にかけて、保健福祉センター周辺で開かれ、2万8千人が祭を楽しみました。

今年も、「天空の光 伝統の響き 創造の力」をテーマに、華やかなステージやパレード、打ち上げ花火など様々な催しでにぎわいを見せました。



前夜祭の20日午後5時、保健福祉センター駐車場の特設ステージ前には、開会を待ちわびた人でにぎわい、花火を合図にいよいよ2日間にわたる「いかにべ祭」が開幕しました。

開会式に続いては、カクテル光線に照らされたステージ上で、ヒップホップ、ジャズ、フラメンコなどさまざまなダンスやアマチュアバンド演奏などのパフォーマンスが午後10時頃まで繰り広げられました。

中でも、今年も特別ゲストとして登場した志鳥出身の柴野真理子さんがボーカルを務めるロックバンド「LOOP CHILD」のミニライブでは、地元ファンが押しかけ、ステージを見守りました。曲目の中には、柴野さんが作詞作曲した南那須中学校の校歌も披露され、その歌声に大勢の人が酔いしれました。





翌21日の昼の部でも、前夜の熱気は継続。午後2時からの「いかんべパレード」では、南那須中学校の吹奏楽部を先頭に、実行委員長や市長などが仮装した「大金いかんべ七福神」、育成会などによる子どもみこし12団体が、クリーンボーイ&グリーンガールのプラカードの先導に続いて、つくし幼稚園から保健福祉センターまでを練り歩きました。沿道には、パレードを一目見ようと大勢の地域住民が訪れ、声援を送っていました。

パレードに続いては、ステージイベントが行われ、現在、テレビで放映中の動物戦隊ジュウオウジャーのヒーローショーに続き、市内小中学校によるブラスバンドや吹奏楽の演奏、大沢在住で演歌歌手の藤井ゆみこさん、宇都宮市の歴史ある社会人ビッグバンド「SWINGING HERD orchestra」や、前夜同様にさまざまなパフォーマンスで会場を盛り上げました。

そして、祭のクライマックスには、お馴染みの「いかんべ八木舞士」の曲に合わせて、ダンスチームBEAT CRASHや宇都宮アート&スポーツの学生による躍動感あふれるダンスが披露されました。それが終わると、花火大会のスタートです。市内外の企業提供のほか、結婚や誕生など人生の節目を記念した花火約1千発が打ち上がり、夜空を彩りました。



- ①BREXYチアダンススクール大田原キッズクラス ②すみれクラブ
③フェアリーパレエ ④LOOP CHILD ⑤実乃富会 ⑥千珠流千珠会
⑦BEAT CRASH大金上級クラス ⑧南那須踊り会 ⑨飛晴 ⑩藤井ゆみこ
⑪Rough Diamond ⑫フラレア ⑬烏山ハーモニカ愛好会
⑭矢崎部品株式会社栃木工場 ⑮ボクキミ ⑯動物戦隊ジュウオウジャーと握手
⑰高根沢フラメンコサークル ⑱くれよんダンスサークル
⑲いかんべ広場で射的を楽しむ親子 ⑳いかんべ七福神の皆さん
㉑いかんべパレードでみこしを担ぐ子どもたち ㉒会場を埋めつくす人・人・人
㉓荒川小吹奏楽クラブ ㉔千草会 ㉕夜空を彩る打ち上げ花火
㉖The Market's ㉗オーティム6 ㉘紗喜千代会 ㉙姫レンジャー
㉚坂東会 ㉛62人のクリーンボーイ&ガールが会場の清掃活動に務めました
㉜SWINGING HERD orchestra。





第8回子ども議会

11人の子どもの議員が議会を体験

市では、8月3日(水)市議会議場で「子ども議会」を開き、市内の小中学校の児童・生徒11人が議員として議会を体験しました。これは、将来を担う小中学生に、市議会の仕組みや市の施策などに触れてもらい、まちづくりに関心を持ってもらおうと開いているもので、今年で8回目となりました。

議場では、子どもたちが、大谷範雄市長をはじめ各課の課長など市執行部を前に、子どもの視点から一般質問をしました。また、議長は、中学生2人が交代で務め、緊張感が漂う雰囲気の中、議会が進められました。参加者と質問内容は次のとおりです。(敬称略 質問順)

■烏山小6年 荒井南那歩

・山あげ祭やいかんべ祭、烏山和紙などたくさん魅力があるが、魅力あるまちづくりのために、どんな取り組みをしているか。今後、どのような活動をしていく計画があるか。

■境小6年 大木朋

・本市には、美術館やホールがなく、本物の芸術に触れる機会や発表の場が少なく感じている。文化施設の充実や文化的イベントの開催など、市民の文化意識を高める施策はあるか。

■江川小6年 黒尾日菜乃

・毎年、米の値段が下がっているのに機械の値段が上がっていて、米作りや農業の将来に不安を感じている。市の農業がこれからも発展していくために、どんな対策を考えているか。

■荒川小6年 内藤瑠奈

・東日本大震災から5年5ヶ月が経ち、何となく生活が当たり前になっているが、大地震が起きたときのマニュアルの内容を市民にどれくらい周知しているか。また、大地震に備えてどのような対策をしているか。

■烏山中3年 長谷川千歳

・ユネスコ無形文化遺産に登録される「烏

山の山あげ行事」について、膨大な運営費がかかっているようだが、市の負担はどのように考えているか。寄附金を集めてはどうか。

■南那須中3年 中山楓恋

・海外交流について、海外派遣以外に海外との交流は考えているか。また、本市に来てもらう計画はあるか。なぜウイスコンシン州メノモニー市が姉妹都市になったのか。

■烏山小6年 島崎華乃

・3年前からABC/R運動が進められ、学校では浸透しているように思えるが、市民全員に知ってもらえる活動をしているか。また、今後この運動の認知度を上げ、市全体に浸透するような取り組みや計画はあるか。

■七合小6年 関谷実鈴

・通学路の防犯対策について、駐在所のおまわりさんやスクールガードリーダー、スクールサポーターが見回りをしてくれてい

るが、通学路の安全や空き家の対策についてどのように考えているか。

■荒川小6年 箕浦悠太

・南那須の緑地運動公園や烏山の大桶運動公園では、中学生や高校生が野球やサッカー、テニスなど運動できる場が確保されている。就学前の子どもたちや小学生が安心して過ごすことのできる公園の整備について、予定はあるか。また、どのように考えているか。

■烏山中3年 矢野佑亮

・少子高齢社会といわれ高齢者の総人口を占める割合が大きくなっている今、お年寄りが快適に過ごせる対策について、具体策はあるか。

■南那須中3年 池尻竜太郎

・ふるさと納税について、昨年度いくらかの寄附があり、どのように支出したのか。今後寄附はどのように役立てていくか。

市地域雇用創造協議会

新商品が発売されました！

【写真】①議場で質問をする児童 ②緊張感漂う議場内 ③11人のこども議員たち。

J Aなす南と地方創生に関する協定締結

農業振興や災害時の連携を強化

市とJAなす南(山田清組合長)は、8月19日(金)、宇都宮市の県JAビルで包括連携協定の締結式を行い、「地方創生推進並びに地域社会経済の継続的發展に関わる包括連携協定」を締結しました。

県内のJAが地方創生に関して自治体と包括連携協定を結ぶのは初めて。この協定は、本市と同JAが連携・協力し、地域活性化や住民サービスの向上を図る

とともに、市が進めている「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を後押しすることを目的としています。

連携事業としては、「市内の農業生産振興や農業者の所得増大」「地域住民に必要なサービスの提供と地域経済・活性化への貢献」などが挙げられます。具体的には、中山かぼちゃや八溝そばなどの特産品のブランド化や6次産業化の推進、災害時の



協定書を取り交わす大谷市長(右)と山田組合長(左)。

復旧振興支援をはじめ、市・JA職員による見守り隊活動や認知症サポーターの養成などを行う予定となっています。

ゆるキャラグランプリ

2016
5019

那須烏山市のイメージキャラクター「ここなす姫・からすまる・やまどん」がゆるキャラグランプリ2016に出場中です。

目標「何が何でも全国200位以内」

皆さんぜひ、自宅のパソコンや携帯電話などからID登録をしていただき、投票よろしくをお願いします。なお、一つのIDにつき、1日1回投票することができます。

■インターネット投票期間:10月24日(月)まで

那須烏山市をPRするキャラクターたちに熱い応援よろしくをお願いします。

現在の順位(9月5日午後2時現在)

総合289位 3861ポイント

■ID登録、投票方法はこちらから

URL:<http://www.yurugp.jp/vote/detail.php?id=00002752>
QRコード



作新学院大学と相互連携協定を締結 特別支援教育の充実目指して

市では、7月20日(木)、作新学院大学(太田周学長)と「相互連携協定」を締結しました。

この協定は、特別支援教育の充実のために、作新学院大学のモデル的研究活動に市が協力し、その成果を地域に還元することで、本市の特別支援教育における指導者の資質向上や各学校の

体制整備を図るものです。

今後は、特別支援教育モデル事業として、モデル校に指定された学校に勤務している教諭に対し、特別支援教育に関する技能・知識を高める指導をすることや、就学支援事業として、就学相談の協力支援などを行うことを予定しています。

厚生労働省から委託された「実践型地域雇用創造事業」に取り組む市地域雇用創造協議会(大谷範雄代表)が、事業拡大や創業による地域の雇用創出を目的とした新商品を開発しました。

平成27年度に開発した新商品は、飾らなくなった盆提灯と地域資源の烏山和紙を組み合わせた「烏山和紙灯籠」や、地域ブランド農産品を使用した「那須烏山で生まれたブランドかぼちゃのスイートタルト」、「那須烏山で生まれた中山かぼちゃの練り羊羹」、「地元で採れたサフランを使用した「サフランバスソルト」、「サフランクレイパック手作りキット」の5商品。このうち、「中



中山かぼちゃ羊羹
取扱店:えちごや丸山菓子店

山かぼちゃ羊羹」については、8月下旬より市内店舗で販売を開始しています。

また、商品の取扱いを希望する事業者を募集しています。希望者にはマニュアルやレシビを公開しますので、市地域雇用創造協議会 ☎ 0287-18318 154までお問合せください。



協定書にサインを交わす大谷市長(左)と太田学長(右)。

戦争の悲惨さ平和の尊さ学ぶ

中学生14人が 広島平和記念式典に参列

■烏山中3年 深澤 夢花

広島派遣事業に参加し、自分にとってたくさんのいい経験をすることができました。広島の前並み、原爆ドームを肌で感じることで、戦争の恐ろしさ、悲惨さを深く理解することができました。そして、私たちの世代がどれほど恵まれていて、平和な世の中を暮らしているのか分かりました。式典の時に子ども代表の方も言っていました、次の世代へ戦争のことを伝えていきたいと思いました。

■烏山中3年 石井 颯

平和は大切なんだと感じました。平和でなかったら、またこのようなことが起きてしまうし、皆、恐ろしさと悲しみでいっぱいの日本になってしまうからです。そのために、広島の人たちは少しでも多くの人に知ってもらい世界から原爆の廃絶を目指しているのだなと思いました。たくさんの人に広島の前爆の悲惨さをしっかり感じてもらい、世界に伝わっていくといいなと思います。

■烏山中3年 高橋 彩希

実際に広島に行って、原爆が投下された事実を実感しました。どの見学先でも、式典でも、被爆した人の叫びが聞こえてくるようでした。「もう繰り返さないで」「悲劇を忘れないで」というメッセージが込められているようでした。そして、私の中で平和への願いがより強くなりました。このメッセージを身近な人に広め、原爆のない、戦争のない世界を創ることに少しでも貢献したいです。

■烏山中3年 羽石 侑輝

私は、平和記念資料館を見学し、平和宣言を聞いて、一瞬で街を焼き尽くし、14万もの人々を殺りくした核兵器は、平和な世界を実現するために決してあってはならないと思いました。世界各地では、今もテロや紛争などが起きています。今、自分ができることは何か？自分一人の力では世界を変えることはできませんが、「非核・平和の市」宣言をした市民の一人として、被爆者の痛みや悲しみを世界中の人々に伝えていきたいです。

市では、8月5日(金)から7日(日)にかけて、市内2中学校の生徒14人を派遣団として広島県広島市に送り、「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列しました。これは、これからの将来を担う中学生に戦争の悲惨さや平和の尊さを自らの目で見てもらおうと4年前から始まった事業です。派遣先では、式典に参列したほか、平和記念公園や平和記念資料館などを見学しました。

派遣を通して、感じたことや平和への願い、そして、これから自分たちができることをまとめた報告書を一部抜粋して紹介します。(敬称略、順不同)

■烏山中3年 生井 千遥

派遣を通して、平和に対する思いが変わりました。今、私たちが平和に暮らしているのは、71年前の多くの犠牲の上にあるということを感じました。平和は自然に手に入るものではなく、人々の努力によってつくられ守られてきたということが分かりました。今の私にできることは、見たり、聞いたり、感じたりしたことを皆に伝えることだと思います。戦争と平和について勉強し、視野を広げ、理解を深めたいと思います。そして、また広島を訪れてみたいです。

■烏山中3年 吉川 和穂

私はまず今回の経験を友人や家族に話して、戦争の恐ろしさや平和の尊さを知ってもらいたいです。そして、私自身も平和について深く考え、平和のためになる行動を身近なところからしていきたいです。例えば、学校や家庭、地域の中が平和になるよう努めたり、平和を乱さないようにしたいです。「核兵器のない世界を追求する勇気」を持って、様々なことに取り組んでいきたいと思います。

■烏山中3年 木村 翔

今まで私は平和についてあまり知識がないことを痛感しました。私たち若い世代は知るべきことがたくさんあります。そのために語り部がありますが、語り部の高齢化が進み、減ってきています。なので、派遣事業で学んだことを家族や友達など少しでも多くの人に伝えようと思います。そして、もっと平和に興味を持ち、未来を担う世代として現状に向き合う必要があると思いました。

■烏山中3年 高野 真好

平和とは何だろうか。それは、家があって、家族がいて、友達がいて、好きなサッカーをする普通の生活です。でも71年前はそうではありませんでした。広島市長の「多様な価値観を認め合いながら『共に生きる』世界を目指し努力を重ねなければならない」という言葉に共感しました。自分たちの世代がもっと平和への思いを強くし関心を持つことが大切だと思います。

■南那須中3年 磯田 大地

これから私は、学んだことを友達や家族などに話し、写真や文章では伝わらない、被爆の真相や平和の尊さを伝えていきたいです。今年4月、G7外相が初めて広島平和記念資料館と原爆ドームを訪問しました。こうして少しずつではありますが、核兵器のない世界に近づいています。私は、全世界が平和で暮らせ、二度とあのような悲劇が繰り返されないことを願います。

■南那須中3年 武石 窓夏

この3日間で改めて核兵器の恐ろしさがとてもよく分かりました。たくさんの人々の命、建物などが原子爆弾により失われるのを考えると胸が痛くなりました。教科書に載っていることだけでは学べないことをこの派遣を通して、実際に見て、聞き、感じるなどの貴重な体験をすることができました。学んできたことを家族や友達などに伝えていきたいです。

伝統の舞を奉納

地域の文化受け継がれる

■森田の獅子舞

8月27日(土)、28日(日)、森田宿センターで市指定無形民俗文化財の「森田の獅子舞」が行われました。

この獅子舞は1600年頃、相次いで起こった天変地異による影響を危惧した森田領主大田原増清が、弁財天を祀ることで民生の安定と五穀豊穡を祈願したのが起源と言われています。

当日、同センターに据えられた御飯屋前で三頭の獅子(雄二頭、雌一頭)が高雅な笛の音に合わせ、舞を奉納。また、途中には「おかめ」「や」「ひょっとこ」といった緑



上から、森田の獅子舞／三箇塙の天祭／下境佐々良獅子舞。

■三箇塙の天祭

起物が登場し、ユーモラスな動きでこちらも訪れた見物人の目を引き付けました。
茨城県城里町から訪れた古賀光行さんは「見に来たのは今年で2回目。このような地域の人たちに愛される伝統行事がずっと受け継がれていてほしい」と話していました。

三箇の松原寺で、8月28日(日)、国選択無形民俗文化財の「塙の天祭」が行われました。これは、天災を除け五穀豊穡を願って、毎年二百十日(9月1日)前後に行われているものです。

当日は、はちまき浴衣にタスキ姿をした地元の小学3年生から中学2年生までの子どもたちが

シリーズ 市の文化財 第65回

市指定有形文化財

木造 風神・雷神像 (滝)



風神・雷神は、人間が怖れを抱く自然現象のうち強風と雷鳴を神格化したもので、古代インド的な裸形の鬼体として表現されています。

太平寺の風神・雷神像は、像高約76cm、鎌倉時代頃に同一の仏師により制作されたと考えられます。雲型の台座に起立し、風神は風袋を肩に担ぎ、雷神は雷鼓を頭上に頂き、目を剥き出し大きく口を開けた憤怒の表情をしています。その姿は愛らしさも感じられます。これは、人々が強力な力をもつ自然神として両神を畏怖しながらも、豊かな恵みをもたらす豊饒の神として崇敬していたことを物語っているのかもしれない。

18人が「奉納太鼓」や「天祭踊り」を披露しました。また、毎年、市内外からも多くの人が訪れるこの行事。今年も大勢のカメラマンや見物人でにぎわいを見せていました。

踊りを披露した江川小6年の古口佑樹さん(三箇)は、「踊りの中で大きな声を出したり、体を大きく動かしたりするのが楽しかった」と笑顔で話していました。

■下境佐々良獅子舞

8月28日(日)、下境の稻積神社では、市指定無形民俗文化財にも選ばれる「下境佐々良獅子舞」

が行われ、多くの地域住民でにぎわいました。

250年以上の歴史があるこの獅子舞。風土安穏や五穀豊穡を祈願するものとされています。当日は、小学校4年生1人と5年生2人の新舞子3人による舞が披露された後、昨年に新舞子として活躍した古舞子が獅子舞を披露しました。

境小5年の小田戸大俄さん(下境)は、「新舞子として、初めて佐々良をやったが、上手く舞うことができた。次は古舞子も挑戦したい」と話していました。

ジオパーク構想教室

コウホネ類 の生態学ぶ



コウホネ類の特徴などが解説された講演。

市教育委員会では、8月11日(木)、
鳥山公民館で「ジオパーク構想教室」を開き、地域住民約30人が訪れました。

この教室は、那須烏山ジオパークの設立に向けて、市内外に那須烏山ジオパーク構想をPRするため

めに一昨年から行われているもので、昨年から、栃木県立博物館市町連携事業の一環として、専門家である同博物館の職員を講師に、様々な教室を開いています。

今回のテーマは、「栃木県内に見られるコウホネ類について」。同博物館の主任研究員である星直斗さんを講師として招き、栃木県内のコウホネ類の種類や特徴などが講演されました。

コウホネ類は、6～9月に咲くスイレン科の植物。山地の池沼や平地の川や池などに生育し、水中から花茎を伸ばして5センチほどの黄色い花を1輪咲かせます。栃木県内においては、「コウホネ」「シモツケコウホネ」「ナガレコウホネ」の3種類が分布しており、本市には下川井地域に「シモツケコウホネ」が生育しています。

参加者は、コウホネ類の生態に興味津々の様子で、耳を傾けていました。また、市職員から、那須烏山ジオパーク構想の概要や今後の取り組みなども紹介されました。

親子で参加したという南1丁目の満田直樹さんは、「コウホネは、とても貴重な資源だと思うので、ぜひ市の魅力として上手く利用してほしい」と話していました。

ボランティア・NPO・市民グループネットワーク研修会 連携強化し地域福祉の課題解決へ

社会福祉協議会では、7月30日(土)、保健福祉センターで



様々な提案が生まれたグループワーク。

「ボランティア・NPO・市民グループネットワーク研修会」を開き、19団体19人が参加しました。

この研修会は、昨年度、ボランティアにNPOと市民グループを加えたネットワークが立ち上がったことを受けて行われているもので、ネットワークを通じて地域福祉の課題を解決することを目的としています。

当日は、高根沢たんたんcaféの発起人の増田茂さんを講師に、「集まろう！つながろう！一緒にやろう！」と題した講演会

が行われました。そこでは、行政・企業・市民活動のそれぞれの強みや、なぜ協働が必要なのかなどが講演され、活動の意義や社会的役割について考える機会となりました。また、その後のグループワークでは、「地域のために自分がやりたいこと」をテーマに話し合いが行われ、早期に実現可能な事業として、「期間限定ハワイアンカフェ」や「大金駅前マルシェ」、「障がいのある人たちの交流」などの案が出されました。

那須南病院 子どもたちが薬剤調合や手術室を体験

那須南病院では、子どもたちに医療について関心や興味をもってもらおうと、8月6日(土)、職業体験として、「第2回N・M・B Festival」を開きました。

当日は、本市と那珂川町の小学5年生・中学2年生までの児童・生徒32人が参加。体験は、「病院見学体験ツアー」と「手術室体験ツアー」の二手に分かれ、行われました。

病院見学体験ツアーでは、病

院内に設置された各ブースで、リハビリ体験や非常食の試食、薬剤の調合体験などを行いました。また、手術室体験ツアーでは、切開縫合体験や、腹腔鏡鏡体験、顕微鏡体験などを実施。そのなかでも、切開縫合体験では、練習用の道具をメスで切開し、その切開した部分を針と糸を使って縫合するという、実際の手術で行う方法を体験しました。

医師の仕事に興味があるとい



手術室で切開縫合体験をする子どもたち。